



令和3年度
森林・山村多面的機能
発揮対策交付金



林野庁

(目次)

2	掲載団体一覧	p.2
3	掲載団体活動所在地	p.3
4	活動事例（東日本活動組織）	p.4
	（1）森ボラ協議会	p.5-6
	（2）NPO 法人 いわて森林再生研究会	p.7-8.
	（3）針生地区森林活性化活動組織	p.9-10
	（4）NPO 法人 自然史データバンクアニマ net	p.11-12
	（5）認知症ネットワークまちだ	p.13-14
	（6）いちほら里山エネルギー	p.15-16
	（7）一般社団法人 金山里山の会	p.17-18
	（8）NPO 法人 自然とオオムラサキに親しむ会	p.19-20
	（9）西伊豆古道再生プロジェクト	p.21-22
	～交付金終了団体コラム～	
	・松戸里やま応援団 樹人の会	p.23
	・お山の森の木の学校	p.24
	・NPO 法人 熱海キコリーズ	p.25
5	活動事例（西日本活動組織）	p.26
	（10）茨木里山を守る会	p.27-28
	（11）三隅林業研究グループ	p.29-30
	（12）森づくり香川・林援塾	p.31-32
	（13）神石高原里山塾	p.33-34
	（14）NPO 法人 奥雲仙の自然を守る会	p.35-36
	（15）狩蔵てごり	p.37-38
	～交付金終了団体コラム～	
	・飯能 Woods	p.39
	・環境保全教育研究所	p.40
	・首里城古事の森育成協議会	p.41
6	地域協議会支援事例	p.42
	・熊本県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会	p.43
	・長崎森林・山村対策協議会 / 大阪さともり地域協議会	p.44
	・山梨県森林協会 / やまがた森林と緑の推進機構	p.45

掲載団体一覧

No.	活動組織名(活動場所)	活動タイプ					活動の工夫点			
		里山	竹林	資源	機能	関係	資金調達 運営 マネジメント	森林作業 安全対策等	情報発信 連携方策	地域活性化
1	森ボラ協議会 (北海道札幌市)	●					○	○	○	
2	NPO 法人 いわて森林再生研究会 (岩手県盛岡市)	●						○		
3	針生地区森林活性化活動組織 (福島県南会津町)	●		●	●	●	○		○	
4	NPO 法人 自然史データバンクアニマ net (栃木県栃木市)	●					○			○
5	認知症ネットワークまちだ (東京都町田市)		●							○
6	いちほら里山エネルギー (千葉県市原市)	●					○		○	○
7	一般社団法人 金山里山の会 (富山県射水市)	●		●			○	○	○	○
8	NPO 法人 自然とオオムラサキに親しむ会 (山梨県北杜市)	●						○		○
9	西伊豆古道再生プロジェクト (静岡県松崎町)			●		●	○		○	○
10	茨木里山を守る会 (大阪府茨木市)	●	●	●			○			
11	三隅林業研究グループ (山口県長門市)	●	●		●					○
12	森づくり香川・林援塾 (香川県綾川町)		●				○	○	○	○
13	神石高原里山塾 (広島県府中市)	●	●	●			○		○	○
14	NPO 法人 奥雲仙の自然を守る会 (長崎県雲仙市)	●					○		○	
15	狩蔵てごり (宮崎県西都市)	●	●	●			○	○	○	○

活動所在地



東日本 活動組織事例



もり きょうぎかい
森ボラ協議会

北海道札幌市都市環境林

札幌市の近郊にはかつて薪炭林の森として使用されその後放置された森が数多く存在します。放置される中で動物による食害、ごみの不法投棄による森の生態系への影響など問題が山積しています。

TEL : 011-816-7010

FAX : 011-816-7010

URL : <https://shinrin-npo.info/>



活動の概要

「森を残したい」想いが生む環境教育の場

旧北海道営林局が主催する、森林保護に関する勉強会に参加した市民 14 人が中心となり、平成 14 年に発足しました。平成 25 年に収入先の安定性や多様化を目的に本交付金へ申請し、現在は札幌市との連携により、市が保有する都市環境林を中心とした計 3カ所の森林の保全・育林活動を展開しています。現在、合計 95ha の森を順次 70 名のメンバーで整備中です。また、地域協議会の開催するチェーンソー講習への参加や

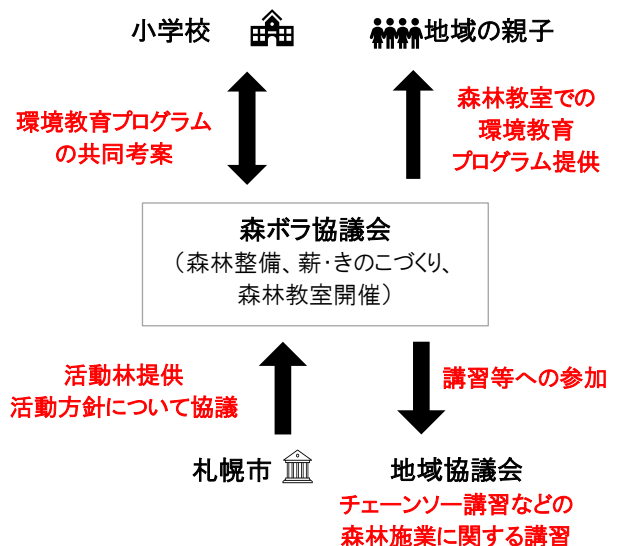
団体内での新規会員向けの安全教育の実施など、安全に配慮した整備活動も特徴です。整備で伐たれた木を活用し、薪やキノコづくりをしています。本交付金以外での活動では、地域の親子や小学生を対象とした森林教室を実施しており、小学校と連携した森林教室では自然観察会に2～6年生の幅広い学年の子どもたちが参加し、森林を活かした実践的な環境教育の場が創造されています。

活動の成果

- 札幌市の都市環境林、国有林の計約 96ha を整備。
- 整備された森林において、薪は市の施設へ供給し、ホダ木でキノコ(シイタケ、ナメコ)をつくり、活動参加者へ還元。
- 森林の場を活用した環境学習を実施し、令和3年度は札幌市内の親子 15 組(子ども 23 名)が参加。小学校と連携した森林教室には小学生延べ 1000 人が参加。



活動の体制





H 14 年

H 25 年

H 27 年

R 元年

R 2 年

R 3 年

地球温暖化対策や地域の森を残したいという想いから、旧北海道営林局にて勉強会に参加した市民十四名により「北海道ボランティア協会」発足。札幌市近郊の都市環境林及び国有林にて育林活動。

活動における資金確保の安定性と、活動の多様化を目的に「森ボラ協議会」を設立、本交付金の活用をスタート。

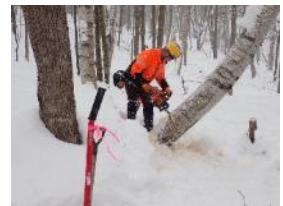
市内小学校と連携し、2、6年生を対象とした環境教育プログラムの開始。

獣害対策の開始。
(網・ツリーシェルター等)

地域協議会の視察受入れ。

計九十六ha整備中。

活動のステージ



活動における工夫点

- 札幌市と連携し、活動林を提供いただくとともに、意見交換や活動方針を協議。
- 豊富な活動メンバーにおける規模の大きな活動の展開。
- 団体内での安全講習の実施により、会員の安全意識・技術、会員間のコミュニケーションの向上。
- 市内小学校との連携による、森林資源を活用した環境教育プログラムの構築、実践。
(森林観察会だけでなく、ゴミ拾い活動などを取り入れ、環境問題に対する教育効果なども期待)。
- 網(2.5m)やツリーシェルター(1.5m)などを導入し、獣害対策を推進。

活動における課題

- 整理伐する木の選別手法の確立。
- 森林整備に伴って生産される薪材等の活用促進(公共施設での活用等)。
- 林地残材の活用、活用する仕組みづくりの検討。

今後の展望

- 近隣の森林ボランティアとの情報交換の場の形成。
- 防災として公共施設へのスウェーデントーチの導入。
- 積雪による枝折れの未然防止。
- 継続的な札幌市・地域の小学校との連携。
- 他の市有林への整備拡張。



団体代表理事
榎棒典夫さん

活動組織キーマンの生の声

森のためはもちろんの事、活動する高齢者の健康・生きがいの場を作るべく活動していきたい。

ほうじん
NPO 法人
しんりんさいせい けんきゅうかい
いわて森林再生研究会

岩手県盛岡市

間伐が行き届かない人工林、利用されない広葉樹林など、地区の里山のほとんどが手入れ不足により荒廃、森林所有者の世代交代により放置される里山が増えています。そのため、森林整備を行いながら、間伐材を林地外へ搬出する事が求められています。

TEL/FAX: 019-638-1043
Mail: info@i-sinrinsaisei.org
URL: http://i-sinrinsaisei.org/



活動の概要

森林保全技術の向上の輪を広げる

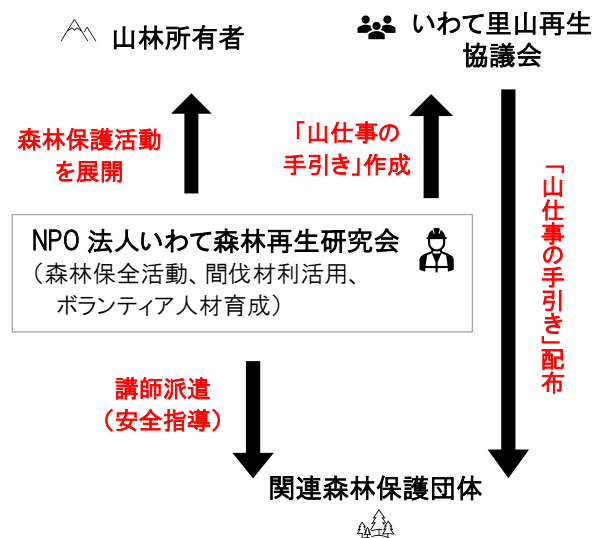
森林の環境改善の研究と重要性の啓発、研究成果の活用による地域改善を目的として平成 15 年に設立されました。発足以来、活動資金は民間の助成金を活用していましたが、平成 25 年より本交付金を活用。現在は 103 名の会員体制で、盛岡市内の民有林を中心に整備を進め、これまでの総整備整備面積は 29.2ha に及びます。整備に伴う間伐材等については、会員内の木工教室の材木や、自前で用意した炭窯を用いた炭づ

くりなどの活動に活用されています。また、会員間での安全講習や関連団体への講師派遣事業等といった人材育成の活動も盛んに行っています。さらに、森林ボランティアの安全対策をまとめた「山仕事の手引き」を発刊し、育成された人材が岩手県内各地において各々の組織を立ち上げる等、多様な活動の広がりを見せています。

活動の成果

- 盛岡市の放置林 29.2ha を整備。
- 整備における間伐材を活用し、木工教室(ミニ家具の作成、DIY)の開催や炭の生産を実施。
- 地元の山林所有者等を中心に、森のチェーンソー講座を開講、年間約 20 日のカリキュラムで保全に必要な技術を指導。
- 近隣の関連団体へ講師派遣事業を実施し、森林保護作業の技術を指導。
- 森林保全の安全対策をまとめた「山仕事の手引き」を制作し、いわて里山再生地域協議会より関連団体へ配布。

活動の体制





H 10 年

前身となる森林保全のボランティア活動を開始。

H 11 年

ZNPO 法人に山仕事クラブを立ち上げ活動を開始。しかし、山林所有者から不評の声を受け、「ボランティアでも、森づくりの知識と作業技術の向上を図る必要があるのでは」という事になり、大学や地元の林業家に知恵を借りる方向へ。

H 15 年

残った活動メンバーにより、「ZNPO 法人いわて森林再生研究会」が発足。

H 20 年

「山仕事の手引き」初版作成。

H 25 年

活動資金確保のため本交付金の活用をスタート。

H 26 年

講師派遣事業の開始。

R 3 年

総計二十九・九ha整備中。

活動のステージ



活動における工夫点

- 明確な理念に基づいた、森林保全技術の研究・啓発の姿勢。
- 団体内外に対する安全講習の実施及び関係団体との連携。
- 間伐材を、薪づくりや木工教室の材料、炭などとして活用する事で林外へ搬出。
- 独自で行っている「森のチェーンソー講座」の参加者を地方紙で募集し、講座修了者には団体への参加を促すことで、会員の確保に繋げている。

活動における課題

- 会員の高齢化。
- 山主の世代交代における、森林整備の必要性や森林整備技術についての継承。
- チェーンソーの技術に突出し、設立時の理念が薄れている。

今後の展望

- 組織の理念・目的を見直しながら、新たなフィールドでの活動と、団体内外への森林整備技術、安全講習事業を継続。



団体代表理事
矢神光政さん

活動組織キーマンの生の声

森は切らなくても切りすぎてもダメ、「山が山であるための適度な整備を楽しく実現する」人でありたい。

はりゅうちく しんりんかっせい
針生地区森林活性化
かつどうそしき
活動組織

福島県南会津町針生地区

南会津町の中心地より 10 km の場所にある針生地区は、森林と棚田の里山風景が広がり、移住者約 140 人がいる地区です。しかし、高齢化・過疎化や集落産業の衰退、森林の荒廃による自然災害等が近年発生している状況となっています。

Mail : scop.matsuzawa@gmail.com



活動の概要

整備による森林空間活用と林床ビジネスの提案



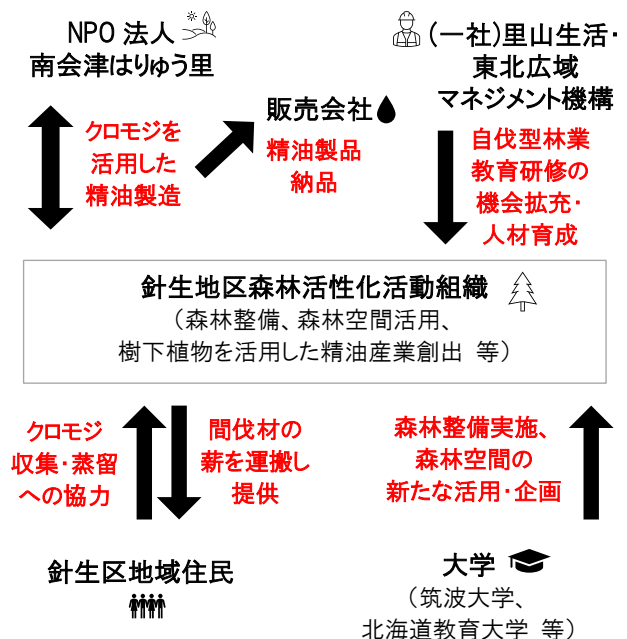
森林資源を活用することにより、集落へ新たに人を呼び込み、新たな 6 次化産業を創出する事を目的に、平成 25 年に設立され、本交付金の活用を開始しました。NPO 法人と大学、地域住民の協働体制のもと、森林整備を実施し、森林空間を活用したキャンプや林道でのホーストレッキングなどのアウトドア・多様なツーリズムを展開しています。また平成 26 年より、新たな産業として樹下植物であるクロモジを活用した精油産業の創出を

提案しています。天然クロモジの収集だけでなく、杉林の間伐によってクロモジの生育プラントをつくり植栽も同時に行うことで持続的な森林ビジネスモデルとなっています。その他にも、整備による間伐材を、薪ボイラーを利用している地域住民へ運搬・提供を行ったり、林業体験やアロマツアー等の自然体験活動によって大学生と地域住民との積極的な交流も図られています。

活動の成果

- 林業体験やアロマツアー等の自然体験活動に、地域住民をはじめとして年間 1,000 人以上が参加。
- 活動に参加していた学生が、卒業後も関係人口として活動に関わってくれるようになった。
- 森林資源の新たな 6 次化産業となる、樹下植物クロモジの精油利用による林床ビジネスの創出。
- 整備後の森林空間を活用したアウトドアやツーリズムの展開。

活動の体制



活動
タイプ

里山 ● 竹林 ● 資源 ● 機能 ● 関係 ●

H24 年

筑波大学が、手入れの行き届かない森林の間伐・刈払い等の整備により、野外教育等のフィールドとしての活用を目指す自主活動を開始。針生区に所在する「鴨沼」を中心として活動を展開。

H 25 年

森林資源を活用することにより、集落へ新たに人を呼び込み、新たな6次化産業を創出する事を目的に団体が設立。本交付金の活用も開始。自主的に活動していた筑波大学、NPO法人や地域住民と連携した体制が構築。

H 26 年

樹下植物であるクロモジを活用した精油産業の創出を提案。地域住民連携の下、クロモジの収集を開始。

H 27 年

NPO法人南会津はりゅう里の会が中心となり、クロモジを活用したアロマオイル製造事業を開始。東京都の販売会社へ納品。

平成 30 年

「一般社団法人里山生活・東北広域マネジメント機構」が加入。自伐型林業の教育研修の機会が充実し、森林整備の機会拡充と人材育成に努める。

活動のステージ



活動における工夫点

- 森林内の知識に優れ、立木伐採等を生業としていた地域住民等の協力を仰ぎ、クロモジの収集や蒸留を実施。地域住民等へ、間伐材による薪の提供や自然体験活動を通じた大学生との積極的な交流を図る事で、継続的な推進体制が構築されている。
- 天然クロモジの収集だけでは資源枯渇の恐れがあるため、クロモジが群生しやすい杉林の間伐を促進し生育プラントをつくることで持続的な林床ビジネスを構築。総体的な森林の価値向上や、放置林の縮小による景観向上、観光森林として活用できるようになるなど様々なメリットが期待されている。
- クロモジだけでなく、伐採跡地や間伐後の杉枝葉を収集し、精油化で活用。

活動における課題

- 南会津産アロマオイルの人気によって資源の枯渇が危惧されたが、クロモジの生育プラントも同時につくっていくことで、持続可能な林床ビジネスを構築した。

今後の展望

- 立木やその他資源の適材適所利用や、持続可能な森林ビジネスの構築で森林への還元。
- 空き家や耕作放棄地等を解消し、観光や滞在等と連携したソフト開発。
- 大学生等だけでなく、U/I ターン者や二地域居住者との連携促進や持続的な関わりを持てる事業や企画の提案。



事務局・企画
松澤 瞬 さん

活動組織キーマンの生の声

過疎化等により、整備の行き届かない森林が増加している現状を打破し、森林の機能を取り戻すと共に、森林と人の関係性を見直す活動を継続していきます。



ほうじん

NPO法人

しぜんし

自然史データバンクアニマ net

栃木県栃木市大柿地区

人口減少及び高齢化により白山神社及び龍興寺周辺・要害山周辺・長田周辺の森林が荒廃し、野生鳥獣の被害が多くなってきている。そうした状況を受け、森林での環境教育及び生物多様性の維持や普及の活動が行われている。

TEL : 090-7177-3310 (山田)

URL : animanet01@gmail.com

https://animanet01.wixsite.com/animanet/home



活動の概要

農業を守るために山を守り、活用する

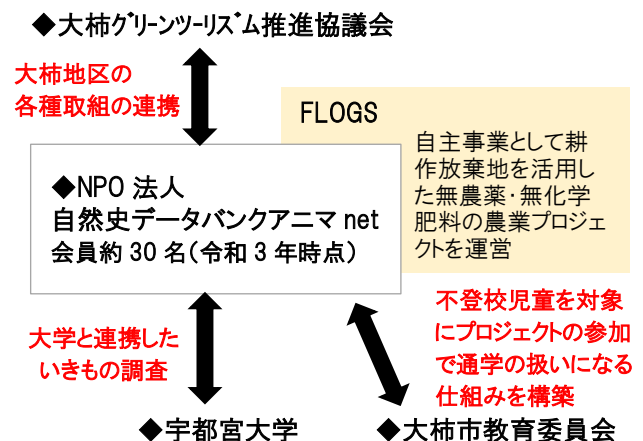
当会は元々栃木県の自然史データの収集を目的としたNPO 法人でしたが、大垣地区の協力団体として農業に取り組む中で地区の森林被害が明るみとなり、その解決を目指して平成 24 年に発足しました。その後活動拡大のため、平成 28 年度より本交付金を開始し、現在の整備面積は 52ha に及びます。主となる整備活動としては、鳥獣害対策として地区内森林の雑木林の刈払いや倒木の整理・集積、朽木の伐採を行っています。また、地域内に古民家を整備し、活動の拠点として活用しています。さらに、整備後の森林環境を活用する試みとし

て、月1~2回の自然観察会・ワークショップを開催。学校へ登校できない子ども達や近隣小中学校児童・父兄・他団体と共同し、里山の豊かさや自分達の生活の関わり等について体験するプログラムを運営しています。他にも、鳥獣被害や耕作放棄地の問題について子供たちとの農業体験プログラムや収穫体験、若者の移住サポート、近隣住民とのコミュニケーションの場等、整備された山の用途は多岐にわたっています。

活動の成果

- 栃木市大垣地域の雑木林を整備
- 整備によって生じた木材廃倒木をリノベーション用資材として活用(活用先:町の空き店舗改修)
- 月1~2回の自然観察会・ワークショップの実施
- 古民家を拠点とした森カフェ、マルシェを実施(昨年度参加 400 名)
- 整備林を活用したアウトドアイベントを開催(毎回書 5 家族程が参加)
- 不登校の子供を対象とした山林体験。(毎年3~5 家族が参加)

活動の体制





H24 以前

H 24 年

H 28 年

H 28 年～R 3 年

R 3 年

栃木県の自然史資料の収集・蓄積を行う。

普及教育や人材育成、生物多様性の維持の活動へと展開し、NPO 法人発足。

地域協議会の紹介のもと、森林・山村多面的機能発揮対策事業を申請。

※その他の活動
○いきもの調査
○森カフェ
○耕作放棄地活用
○古民家（空き家）活用

●森林整備
●森林資源の活用
●整備地を活用したイベント実施

本交付金事業での取組
第十八回オーライ！日本大賞に認定。

活動のステージ



活動における工夫点

- 森林整備以外に農業、不登校支援、地域の場づくり等といった多様な活動を展開することにより若い活動メンバーの興味、メンバーの獲得につなげている。
- 「単純な整備だけでは終わらせない」考えからくる整備林の多様な活動の展開。
- 古民家を拠点に多様なイベント行うことによる地域の場づくりの展開。
- 家族、学校などの理解、協力を得ることによる子供の山林体験の充実化。
- 鳥獣問題という地域の課題の貢献による、地元住民、行政からの信頼の獲得。

活動における課題

- 農業の活動も行っているため、林業に充てられる期間が6～9月と短くなってしまうこと。冬場の森林整備を検討している。
- 活動を希望する人が多く、安全・費用面から応えられていない場合がある。

今後の展望

- 整備林を活用したキャンプ地の整備、レクリエーションを通じてより広い市民の方に森の豊かさについて知る機会を作りたい。



代表
渡邊 秀昭 さん

活動組織キーマンの生の声

これからの地域を支える年代の方たちに参加をして欲しい。若者の参加が大切。



にんちしょう

HATARAKU 認知症

まちだ

ネットワーク町田

東京都町田市下小山田町

町田市北部丘陵の東谷戸竹林を通して、若年性認知症の方々による整備活動、竹林を活用した様々な方との交流が行われています。

TEL：090-2875-8047（青木）

facebook：https://www.facebook.com/groups/185431018625438/



活動の概要

認知症でも自分らしく竹林整備活動ができる環境づくり

代表の松本氏は介護事業のかたわら、認知症の当事者が語り合う「認知症の人とともに歩む本人会議」を開始。当事者の「外に出て、社会と関わりたい」という声を受け、はじめは畑作業を行ってもらい、その指導者として農家の青木氏と出会いました。そして、青木氏の元へ町田市の山林バンク開始の通知が届いたことをきっかけに、市に対して認知症の方々が活動できる竹林を借りられるよう働きかけ、令和元年に活動がスタートしました。

しかし、漠然と整備を行う中でモチベーションが下がってきた事や、活動をしてくれるボランティア・認知症の方々に活動費を支払いたいと考えるようになり、令和3年度より本交付金を活用し、より活発な竹林整備を進めてきました。

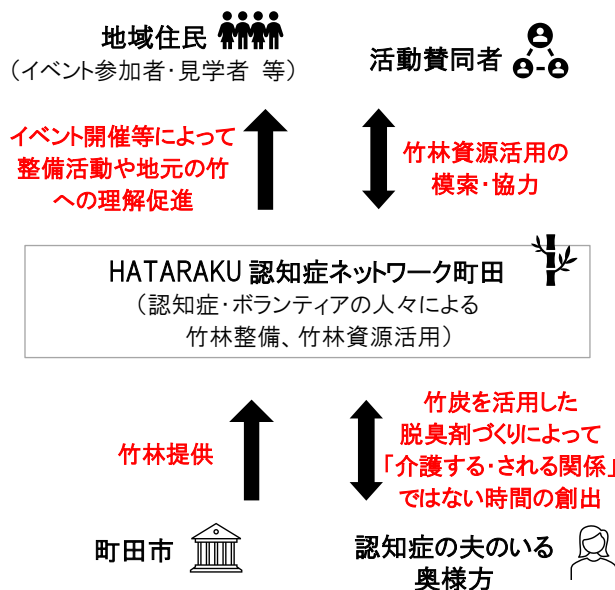
本交付金以外にも、タケノコ収穫祭や竹灯籠教室の開催など、地域の方々や活動の賛同者と共に、竹林資源を活用した活動を展開しています。

活動の成果

- 整備目的が明確になる事による参加者の意欲向上
- 安全管理意識の向上。
- コロナ禍でも認知症の方々が体を動かす良い機会。
- イベント等による地域住民への活動・地元竹の周知。
- 認知症当事者の夫は竹林整備を行い、その奥様方は竹を活用した竹炭脱臭剤づくりを行う事で、「介護をする・される関係」では無い時間を創出。



活動の体制





H30年以前

代表の松本氏は介護事業のかたわら、認知症の当事者が語り合う「認知症の人とともに歩む本人会議」を開始。

H 30 年

当事者からの「外に出て、社会と関わりたい」という声を受け、認知症の方々の外部活動として畑作業を開始。指導者として農家の青木氏と出会う。

R1年

青木氏の元へ町田市の山林バンク開始の通知が届いたことをきっかけに、市へ働きかけ、竹林を借りて活動を開始。
 ・竹林整備
 ・竹の子、竹製品の販売
 ・イベント等開催

R3年

漠然とした整備によるモチベーションの低下、ボランティアや認知症の方々へ活動費を支給したいと考えるようになったことを受け、ネットで調べた交付金の活用を開始。

活動のステージ



活動における工夫点

- 毎週定期的に活動を行う事により、認知症の方もこれまでの活動を忘れにくくなり、意欲が向上した。これまで送迎で迎える際に 20 分後にしか出てこなかった参加者が、今では送迎の到着前に玄関先で待っているなど変化が見られるようになった。
- 竹資源の様々な有効活用に挑戦(子どもたちの遊び場づくり、竹垣づくり、竹灯籠教室開催 等)。
- 竹灯籠教室を開催し、参加者へ地元の竹に親しんでもらった。
- 認知症の方にも仲間として接し、自らも楽しんで活動を行う事で継続的な活動に繋がっている。
- 一人一人が距離をとって作業を行う事でコロナ禍でも継続的に活動できている。

活動における課題


- 一人で活動に来れない認知症の方の送迎(ボランティアなどへの負担)。
- 竹資源を活用した新たな製品の開発。

今後の展望

- 活動に賛同してくれる様々な関係者と共に、お箸などのカトラリーに竹資源を活用するなど、新たな竹の子・竹製品開発を進めていきたい。



団体代表
松本礼子さん

活動組織キーマンの生の声 

交付金を活用しているという責任感が認知症の方々の自発的な気持ち・行動に繋がりと、モチベーションをもって活動できています！



いちほら さとやま 里山エネルギー

千葉県市原市

千葉県は全国で7番目に竹林が多い都道府県です。その中心部にある市原市では、令和元年に台風15号に直撃し、放置竹林による停電被害が発生しました。そうした状況の中、台風被害木の処理・有効活用が行われています。

TEL : 09041353060 (高澤)

Mail : kenko@tosyobussan.co.jp

HP : http://kazusatsurumaisolar.in/?nage_id=1607



活動の概要

台風被害の復興と交流を通じた関係人口づくり

竹林整備を目的に平成28年に設立され、平成29年より本交付金の活用を開始しました。初めは侵入竹除去・竹林整備を実施し、平成30年には炭化器導入による竹資源の竹炭活用に取り組み始めました。活用方法としては、造園業者の土壌改良剤や、「銀座ミツバチプロジェクト」の一環としてビルの屋上庭園の土に活用し、ヒートアイランド対策にも寄与しています。しかし、令和元年に活動竹林へ台風15号が直撃し、放置竹林に

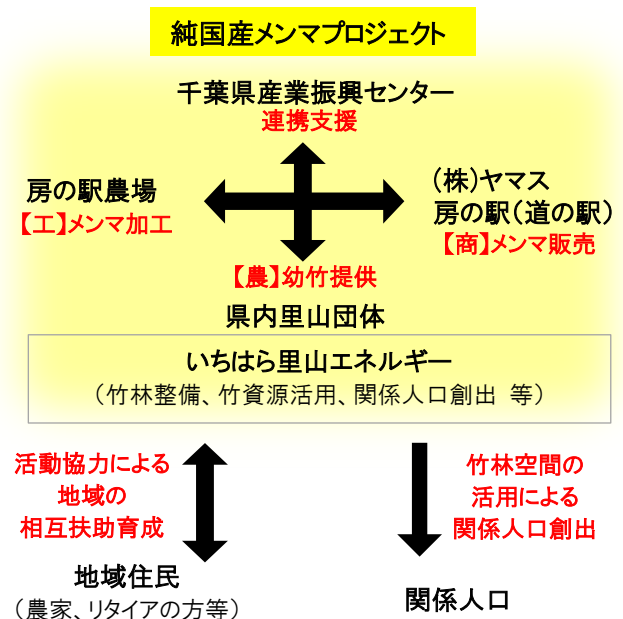
よる停電被害の発生、また、被害木の処理作業も行う事になりました。そこで令和2年、薪割機を導入し、被害木を薪として有効活用しました。その他にも、県内里山団体や企業との農・商・工連携による「純国産メンマプロジェクト」を展開し、育ちすぎてしまった竹の子の食への活用も推進しています。さらに、整備後の竹林を活用し、多様な団体のイベント等を行う事により、地域への関係人口増加にも寄与しています。

活動の成果

- 薪割機の導入により、台風被害木を薪として有効活用。台風復興への貢献、地域連携の促進。
- 竹資源を竹炭として活用し、造園農家の樹勢改善や、都内ビル屋上緑化プロジェクトのヒートアイランド対策への貢献など、多様な効果が発揮。
- 竹の子を農・商・工連携により国産メンマへ活用。
- 整備後の竹林空間を活用した団体のイベント等を実施し、活動へ関わる関係人口を創出。



活動の体制





H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年
竹林整備を目的に、団体が設立。	里山センターからの紹介をきっかけに交付金活用開始。	本交付金によって炭化器を購入。竹炭の有効活用を開始。	台風十五号により放置竹林による停電被害が発生。被害木の処理も課題に。	本交付金の台風特例を活用し、薪割機購入の助成を受ける。被害木を薪として有効活用。	「関係人口創出・維持タッグ」の活用を開始。関係人口の増加を促進。

活動のステージ



活動における工夫点

- 本交付金の助成を上手く活用し、炭化器・薪割機導入による竹炭・薪への有効活用。
- 農・商・工が連携し、育ちすぎた竹の子による「国産メンマプロジェクト」を展開。農の部分を県内里山団体が広域連携で担い、商・工を市内企業が担う事で加工、販売を行う体制を確立。
- 「国産メンマプロジェクト」で使用する竹の子の剥いた皮を、市原ぞうの国へ提供し、ぞうの餌として資源循環。
- 様々な団体・人々が整備後の竹林を通して地域に関わりを持つ機会を拡充し、「関係人口」を増やすことで、高齢化や過疎化などの課題の解決を目指す。

活動における課題

- 現在、中国産輸入に頼ってしまっているサカキを、栽培・枝ものとして活用する「国産サカキプロジェクト」をスタート。サカキにつくチャトゲコナジラミの駆除に対応中。



今後の展望

- 関係人口、関係住民との交流を加速。
- 地域資源活用の推進。
- 食を通して、様々な分野の人と交流することで、女性の参加者を増やす。
- コロナ渦、心身衰弱等の改善や癒しの効果を発揮。
- 脱炭素社会への貢献や輸入に頼っている食料等の国産化を推進。



代表
高澤 真 さん

活動組織キーマンの生の声

千葉県広域で活動する、ちば里山・バイオマス協議会にも参加し、竹の利活用がさらに進んでいます。様々な団体と連携することで新しい取り組みが広がります。



いっばんしゃだんほうじん かなやまさとやま かい
一般社団法人 金山里山の会

富山県射水市金山地域

射水市金山地域は、昔からマツタケの産地として知られていました。しかし森林の荒廃などにより 30 年ほど前からマツタケが採れなくなっていました。そうした状況を受け、地域の人々が森林整備のために立ち上がりました。

URL : <https://kanayamasatoyama01.wixsite.com/website>



活動の概要

「キノコが育つ山」を目指した森林保全

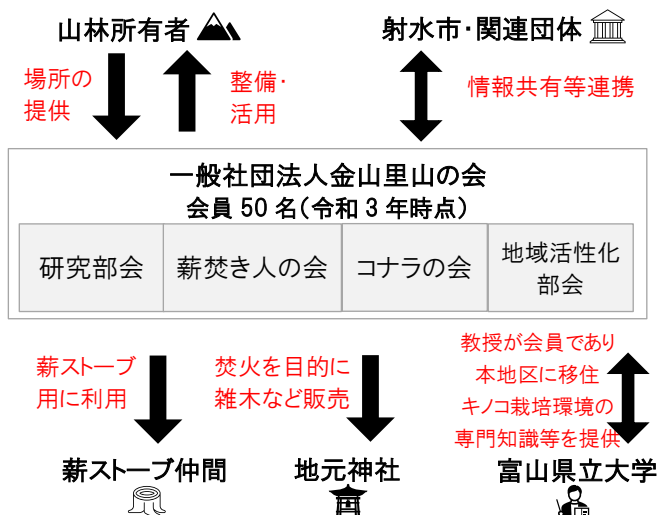
金山里山の会は、マツタケが不作になってきている金山地域で、定年後地元のための活動をしたいと思立った地域の人々により設立され、森林整備を開始しました。会員間で毎週、地道な作業を進め、荒廃していた地域の里山を昔のように戻す為、薪づくりや椎茸づくりにより人と山が共存する保全活動を行っています。2013年に本交付金の助成を受けた後は森林内の倒木除去など進めるとともに、マツタケ菌が発生しやすいコナラを中心に残すための低木の除伐に取り組み、近年マツタケが大幅に収穫できるようになりました。団体会員であれ

ば、山へ自由に入り、薪を自由回収することが可能にすることで、森林に人が常時入れる仕組みを作りました。また、醤油づくり体験教室を親子向けに開講など、整備による薪も多くの場面で活用されています。コナラの木の原木椎茸は、市、大学、地域おこし協力隊など多くの人の関心を集めており、直売所、地域内での販売強化や、山の特性に合わせたマツタケ、シメジといった他のキノコ栽培への研究など、挑戦が続いています。

活動の成果

- 射水市金山地域のコナラ林を整備。
- 購入したチップパーは住民が借りやすいようレンタル制度にし、利用促進に繋がっている。
- 整備により出た薪を活用し、市外などから参加してくる親子の味噌づくり体験(18組)、しょうゆづくり体験(2030組)を実施。
- 富山県立大学の教授による研究交流を行い、毎年学生 5~6 人が毎年森林保全に携わることができている。
- 原木椎茸が再生し、販売活動に繋がっている。

活動の体制





H23 年以前 H 23 年 H 25 年 H25~ H28 年 ~R3 年

森林の荒廃などによるマツタケの不作。

金山地区住民・射水市在住者で金山金里を設立。里山の保全活動を行う。

富山県の広報や森林政策課より紹介いただき、事業が開始。

※交付金の取り組み
森林内の間伐や間伐材を利用した薪や原木椎茸への活用、マツタケ菌が発生しやすいコナラを中心に残すため、それよりも低い木を除去し、マツタケの発生し易い環境の整備。

一般社団法人へと法人化。

一般社団法人として、交付金による森林整備の他、整備した場を活用して「研究部会」「こならの会」「薪焚き人の会」「地域活性化部会」等の体制で各事業を推進。



活動における工夫点

- 生産される薪を会員は自由に利用できる、森林に人が入れるようなシステムの構築。
- キノコ栽培、森林整備を通じた多様なステークホルダーの関係性の構築。
- 森林資源の活用(木工教室、薪生産)を通じた地元住人への理解向上、環境教育。
- 市、大学、地域おこし協力隊との連携による若い世代の活動参加の増加。
- 茸のブランド、多品種栽培における森の高付加価値化の取り組み。

活動における課題

- 他地域の方を受入れる時の地元住民との合意形成。
- 活動のメンバーの高齢化。薪等に興味がある若い世代の参加者に多様な活動に対して興味を持ってもらうきっかけ作りが必要になっている。
- 補助金に頼らない自走できる仕組みづくり。

今後の展望

- 椎茸の商標登録・ブランド化および販路拡大。
- 私有林を団体で登録し管理を行えるよう規模を拡大
- サイクリングロードや遊歩道の形成に向けたスポーツ関連企業との連携の推進。
- 里山交流拠点の形成を市や企業と連携して展開。



代表
中波 正弘 さん

活動組織キーマンの生の声

山を中心に色々な年代の様々な人が集まる場を作っていきたい。



しぜん した かい
自然とオオムラサキに親しむ会

山梨県北杜市長坂町 910

昭和 40 年代初めまで炭焼きが盛んで、クヌギやコナラの広大な里山林が存在し、国蝶オオムラサキの我が国有数の生息地として知られていました。しかし近年、里山林の利用度が低下し、荒廃した結果、行き場を失ったオオムラサキ等の昆虫類も生息数が減少しています。

TEL : 0551-32-6648

FAX : 0551-20-4380

URL : <https://oomurasaki.exblog.jp/> (会長ブログ)

<http://oomurasaki.net/> (オオムラサキセンターHP)



活動の概要

国蝶オオムラサキを育ててきた里山を整備によって再生する

地域にとって身近であったオオムラサキを残したいという住民の想いから、平成7年にオオムラサキの普及・宣伝活動の拠点としてオオムラサキセンターが設置され、翌年には当団体が設立されました。しかし、オオムラサキの生息地である里山林が荒れている状況を受け、地域の同窓生等によって森林整備活動を開始。平成20年に NPO 法人となり、雑木林の間伐やササ刈りや伐採後放置された林にエノキやクヌギの植樹活動を続けています。これまで整備した森林は 80ha に及びます。また、北杜市の移住者ネットワークである「ふるさとクラブ」のリーダーより、活動に対する共感を得ることができ、現

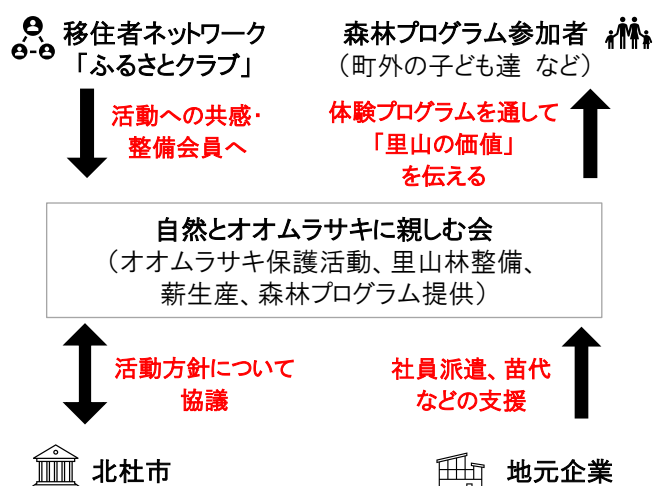
在では会員の約半数が移住者となっています。地元企業からも、年に数回、20~30 人の社員を活動へ派遣していただき、植林の苗代も支援いただいています。さらに、移住者の増加に伴い、薪ストーブのニーズが高まってきたため、整備による間伐材を活用した薪の生産・提供を開始し、地域住民に喜ばれています。その他にも、整備した里山林を活用した、昆虫の観察会や虫取り体験、植林活動といったプログラムも実施しており、都会の子ども達へ「里山の価値」を伝える場所を提供しています。

活動の成果

- 長坂町の雑木林 80ha を整備。
- 本来の生態系への改善に繋がった。
- 薪の生産が進むことで、地域の山林所有者が間伐材を薪にする傾向に繋がった。
- 本交付金を活用する事による、間伐材を活用した薪の生産や、整備後の里山林を活用した森林体験プログラムの実施などの多様な活動の展開。



活動の体制





H 7 年	H 8 年	H 20 年	H 27 年	R 元年	R 2 年	R 3 年
オオムラサキを残したいという機運が盛り上がり、オオムラサキ保護の普及・宣伝活動の拠点となるオオムラサキセンター設置。	「自然とオオムラサキに親しむ会」設立。	オオムラサキの生息地である里山林放置の状況を受け、地域の同窓生に呼びかけて里山整備が開始。同年、NPO法人となった。	地元農家の機械によって整備活動は行っていたが、植林の苗代の捻出に悪戦苦闘。その際、山梨県みどり自然課から紹介があり本交付金の活用を開始。	台風上陸によってアカマツの倒木被害に遭う。	山梨県と連携し、令和元年の台風によるアカマツ倒木を用いたチップ粉碎の実験を行った。	総計八十ha整備中。

活動のステージ



活動における工夫点

- 山梨県と連携し、令和元年の台風によるアカマツ倒木を活用し、チップ粉碎の実験を行った。
- これまで放置していた間伐材を薪として生産・販売を行い、近隣の山村や別荘地へ供給。
- 山林の経営計画と活動が重複しないよう、北杜市と連携。
- 組織の若返りと資金の自立(薪販売の拡充、森林を活用したキャンプ場の運営、工作体験やイベントの運営、北杜市等指定管理)を促進。
- SNSを活用した、日々の活動や里山林の景色・小道の美しさなどの発信、薪の販売告知。

活動における課題

- 放置林所有者の把握・協力依頼の負担。
- 活動メンバーの高齢化による担い手不足の懸念。

今後の展望

- 森林整備による間伐材を活用し付加価値を付け、持続的に収入を得られる仕組みづくりを模索。
- 景観の改善に伴い、間伐材を活用した木馬や木の自動車などの遊び場を計画。
- 森のコンサートなど新しい活動の展開。



会長
跡部 治賢さん

活動組織キーマンの生の声

自然を理解し、共生するために努力した先人達の知恵が詰まった里山を整備し、人にも自然にも、そしてオオムラサキにも優しい環境を次世代へ繋げていきます。



にしいずこどう
西伊豆古道
さいせい
再生プロジェクト

静岡県賀茂郡松崎町

西伊豆地域の山中には、炭焼き道やかつての生活道であった1200年以上の歴史がある古道があります。車社会、化石燃料の生活に変化したこの数十年で、使われなくなり荒廃した山道を再生し、活用するための取組が行われています。

TEL : 0558-36-3701

Mail : yamabushi.trail.tour@gmail.com

URL : https://basetres.jp/project/ancient_trail/



活動の概要

森林内の古道を再生し、活用する

10代から海外トレッキングへ出かけるほどの「旅好き・道好き」であった代表の松木氏は、地域のお年寄りから古道の存在を知り、2012年より西伊豆の炭焼き道・生活道を蘇らせる「西伊豆古道再生プロジェクト」を開始しました。町や区に事業計画書を持込んで森林での活動許可をもらい、地域の林業グループ「チーム北見フォレスト・ワーカーズ」に加入する事で整備技術を身に付け、林業グループメンバーの手も借りながら徐々に活動を進めていきました。そして2013年、松崎町の紹介により本交付金の活用を開始すると共に、再生した古道をコースとしたマウンテンバイクによるトレイルツアー「YAMABUSHI

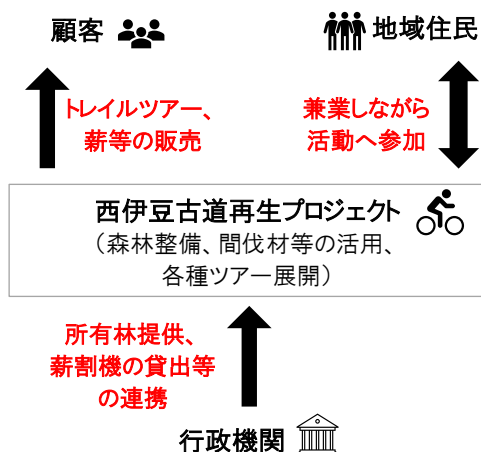
TRAIL TOUR」の提供を開始しました。また、炭焼きが行われなくなったために放置された広葉樹を伐採・搬出し、薪ストーブ用の燃料や地元の伝統食材・伊豆田子節(かつお節)を燻すための薪として販売も行っています。さらに、森の焚火とハイキングなどのツアーも行っており、森林を多様な形で活用しています。その他にも2018年に宿泊施設「ロジモンド」をオープンし、その内装に整備地の木材を活用する事でローカルの森を感じられる空間になるよう工夫がなされ、ツアー客等を楽しませています。

活動の成果

- ツアーや薪販売など多様な事業のベースの構築。
- 活動を見た地域住民の山への関心が高まり、山へ入るきっかけに繋がっている。
- 海の観光がメインであった地域に、冬の閑散期でも山で楽しめる新たな観光資源を創出。



活動の体制





H24 年

代表の松本氏が、地域の
年寄りから古道の存在を聞
き、西伊豆の炭焼き道・生活
道を蘇らせる「西伊豆古道
再生プロジェクト」を開始。
松崎町有林での活動許可を
もらい、地元林業グループ
「チーム北見フォレスト・
ワーカース」に加入し、協力
を得ながら整備活動を推
進。

H 25 年

松崎町の紹介によって本交
付金の活用を開始すると共
に、再生させた古道をコー
スとして走るマウンテンバ
イクツアー「YAMABUSHI
TRAIL TOUR」の提供を開
始。

H 30 年

整備地の木材を内装に活用
した宿泊施設「ロッジモン
ド」をオープン。

活動のステージ



活動における工夫点

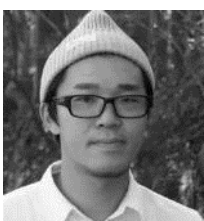
- 古道から遠い場所では捨て切りを行い、近い場所の木材は搬出して薪として活用するなど、位置によって整備内容を変えている。
- 交付金活動 1 年目は薪生産のための現地調査と作業道確保などの下準備を行い、2 年目は薪生産を進め、3 年目はワンアクション起こす、というように、交付金活用 3 年間の各年度でテーマを設定。
- 松崎町より薪割機の無償提供や、「YAMABUSHI TRAIL TOUR」がふるさと納税の返礼品になるなど、行政機関との連携体制が構築できている。
- 兼業をしている地域住民の方が多く、そうした方の本業が閑散期のタイミングで上手く活動に参加できる柔軟な体制が構築されている。
- 薪提供の担い手が減少している中、地域の広葉樹の薪を使用して燻していた伝統食材・伊豆田子節(かつお節)のお店へ薪提供を行っている。

活動における課題

- チェーンソーによる倒木処理ができるメンバーが限られているため、もう少しできる人を増やしたい。

今後の展望

- 他所から桜の燻製チップを入手している地元の料理店へ、森林内の山桜を提供し燻製チップに活用するなど、食と絡めた活動も展開していきたい。



山伏トレイルツアー
マネージャー&ガイド

平馬 啓太郎さん

活動組織キーマンの生の声

元イラストレーターをしておりインドア派だったため、初めは整備を大変だと思っていたが、兼業しながら山で体を動かす事でリフレッシュもでき、段々と良さを感じるようになった。本交付金は山で行う活動なら何にでも多面的に活用できると思うため、山で気持ちよく活動する人が増えると良いと感じる。



まつど さと おうえんだん じゅうに かい
松戸里やま応援団 樹人の会
(千葉県松戸市)

交付金活用期間：5年間（平成28～令和2年度）
TEL: 090-9333-4358
Mail: marin0901h@cb3.so-net.ne.jp
HP (Facebook) : <https://www.facebook.com/juni.nousaginomori/>

活動概要

交付金活動による動植物の再生と子どもの学び場づくり

東京都に隣接する松戸市の東端、紙敷地区には「野うさぎの森」という1.8haの広葉落葉樹中心の都市林があります。平成26年、松戸市で開催された「里やまボランティア入門講座」の受講生が中心となり樹人の会を結成。平成27年に現在の活動地での取組が始まりました。交付金期間では平成28年から5カ年、侵入竹

除去や台風による被害木の処理などを行いました。交付金活動により竹が除去され、竹柵で林床への人の進入を規制したことで、春にはキンランやシュラン、トンボソウ等の貴重植物も発生しています。また、作業・観察道やキッズエリアの整備により子どもたちの学び場として活用されています。

活動継続の工夫点・ポイント

- Facebook やパンフレット等による積極的な情報発信。
- 小学生の授業の受入れとして観察会や竹工作など体験プログラムを提供。
- 松戸市で開催される「オープンフォレスト in 松戸」の受入れ先として認知され、お子さんを連れた家族等の来森者が増えている。
- 松戸の貴重な自然の現状を知って頂くために「松戸の森は今」といったチラシを用意して来森者に配布し、団体活動の周知・理解促進に繋げている。



現在の活動における課題

- 野うさぎの森では、交付金活動によりフクロウや野うさぎ、タヌキの活動が確認されており、これらの小動物の保全のための環境づくりを進めている。



今後の活動の展望

- 貴重な動植物の保全活動と継続的な情報発信等に取り組み、より多くの近隣住民の方々に来ていただく機会をつくっていく。
- 森のCO2削減についての知識を得て、今後の活動に生かしたい。

都会に残った森は、貴重な動植物の住処です。この様な環境を維持し、皆様に認識して頂くために今後とも保全活動を行っていきます。

キーマンの生の声
代表 吉原茂子さん





ほうじん やま もり き がっこう
NPO 法人 お山の森の木の学校
(新潟県東蒲原郡阿賀町)

交付金活用期間：7年間（平成26年度～令和元年度）
TEL: 0254-99-3226
Mail: oyamanomori@kinogakkou.jp
H P: https://www.kinogakkou.jp/

活動概要

地域密着型の生きた森林教育、木を通したものづくり体験の提供

お山の森の木の学校は、中ノ沢渓谷森林公園・森林科学館を拠点に木とふれあう木工体験活動を行なっています。代表の明石さんは、木工のできる場所を求め、中ノ沢集落に1ターン。平成16年に団体を設立し現在指定管理で運営しています。森林公園25haの土地で管理が行き届かないところ、本交付金事業を活用して、

本格的な森林整備に取り組むことができました。交付金で整備したエリアは、教育タイプを活用して開催した観察会の参加者が、ボランティアとして組織をつくり森林管理を行いながら、引き続き、歩道整備や観察会など継続的な活動に繋がっています。

活動における工夫点・ポイント

- 本交付金による観察会の開催で森林整備の担い手となる人材を発掘・育成することができた。
- 交付金整備場所の隣接に天然杉のある国有林を有しており、現在「ふれあいの森」として歩道を整備するなど、メンバーの機運醸成につながっている。
- 間伐材を活用し、県産材の加工商品の販売や木工体験の提供を行う。
- 小学生や県職員の名札作成など地域への認知度アップにつながっている。
- 森林公園にキャンプ場があり、コロナ禍でも人の流れが多い。



現在の活動における課題

- 観察会や体験プログラム等の収益事業の拡充等による資金確保。



今後の活動の展望

- 整備した場所・歩道を継続的に管理運営し、森林公園に来て満足していただける環境づくりを目指す。
- 若手スタッフを育てて、持続的な活動へつなげていく。

交付金事業は期限が決まっていますが、それ以降がとても重要です。立ち上げ時から森林整備のその先について考えて取り組んでいきましょう。

キーマンの生の声
副代表 山田弘二さん





ほうじん あたみ
NPO 法人 熱海キコリーズ
(静岡県熱海市)

交付金活用期間：3年間（平成29年度～令和元年度）
Mail: atamikollys@gmail.com
HP: http://atami-kicollys.org/

活動概要

熱海の森に、新しい風を

平成28年に「森が好き・森を守りたい」という共通の想いを持った民間の有志が集まり、本業の傍らで副業で週末キコリをしています。
交付金は平成29年度から3年間活用し、熱海市内及びその周辺地域において森林の整備、間伐材の活用および森林を用いた体験・教育に関する事業を行うことで、持続可能な林業活動や地域復興を目指すことを目的としています。

現在は主に、以下3つの活動を実施

- ① 間伐等による森林保全事業：放置林を間伐し、森の再生化を実現。
- ② 間伐材の活用事業：間伐で伐採した材を放置せずに、建材や加工品として製材し活用。
- ③ 森林を活用した体験・教育事業：手入れを行っている森林を利用して、一般の方々を誘致して行う体験プログラム。

活動における工夫点・ポイント

- より継続的な活動を続けていくため、令和2年4月に任意団体からNPO法人になりました。
- 森の大切さや豊かさを知ってもらい、サステナブルな森林を残すため『熱海キコリーズと森を守ろうプロジェクト』をクラファンで実施。【森林浴フィールドで間伐材ウッドデッキづくり】のために360万円以上の資金調達に成功し、支援者の方々と一緒に森づくりをしてきました。(2022/4/23 完成予定)



現在の活動における課題

- 伊豆山土石流災害の被害を受けた、「逢初地蔵」のあるお堂の復旧活動を担当。内装には熱海伊豆山の間伐材を活用予定。
- 活動が多岐に渡る中、我々の技術と人材のできる限りのことを安全第一で実施していきたいです。

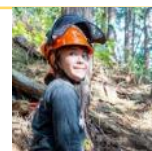


今後の活動の展望

- 今後は、本来の森の持つ力を再認識するために、熱海での経験も活かし、『防災・減災につながる森林保全活動』に取り組む予定です。
- 具体的には、「山に負担の少ない森づくり」「森の魅力を学べる体験づくり」「自活力を養うための技術取得」を行い、地域貢献をしていきたいです。

地域密着型の森林保全 NPO 法人として、地域の課題解決を柔軟に行い、明るい未来を切り拓いていきたい。

キーマンの生の声
理事長 能勢友歌



西日本 活動組織事例



いばらき さとやま まも かい

茨木里山を守る会

大阪府茨木市千提寺地区

ローマ法王に認定された聖地、「隠れキリシタンの郷」として有名であり、文献などの貴重な資料が存在していることで名高い場所です。また、新名神高速の茨木千提寺インターチェンジがあることから重要な交通拠点となっています。しかし、竹林所有者の高齢化やそれに伴う竹林荒廃は避けられず、里山・竹林整備が必要とされています。

TEL : 090-5869-3879 (齊藤)
Mail : tetsumi.saito@gmail.com
URL : http://maroonbear1.sakura.ne.jp/



活動の概要

地域と緊密に連携した里山・竹林整備活動

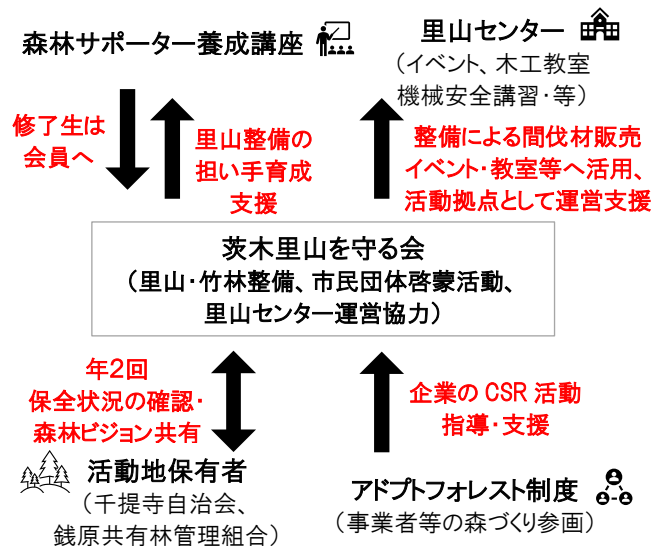
大阪府茨木市では、里山を将来にわたって保全するため、平成17年より森林サポーター養成講座を開講。そして平成18年、講座の一期生により「茨木里山を守る会」が結成されました。平成25年には、本交付金の活用も開始。現在は「隠れキリシタンの郷」としての景観保全、新名神高速道路周辺の里山整備など、活動地権者(千提寺自治会・銭原共有林管理組合)と緊密に連携しながら活動を実施しています。活動内容としては、集落周辺の進入竹林の除去作業、荒れた天然林の整

備、人工林の間伐等の景観保全活動や森林育成活動に取り組んでおり、成果を上げています。また、一般市民団体への啓蒙活動にも力を入れており、シニア自然大学校間伐体験講座や企業の森林整備活動の指導などを、専用の実習林に於いて年間延べ200名に対し実施しています。さらに、活動拠点である茨木市里山センターの運営にも協力しており、地域交流やイベントの開催、各種講座・教室の開催、市内小中学校への環境教育活動支援なども行っています。

活動の成果

- 高齢化によって整備ができない山主が喜んでくれる。
- 組織体制に安全担当をつくり、年間10回程度のチェーンソー講習等を行うことで安全対策に対応できるようになった。
- 地元と連携する事により、整備活動後も、地元の人が整備活動を継承するようになった。
- 大阪府が事業者と森林所有者の仲人となり、森づくりへの参画を進める「アドプトフォレスト制度」の活動指導団体として企業のCSR・社会貢献の取組に寄与。

活動の体制



H 17 年

茨木市の里山を将来にわたって保全する事を目的に、茨木市森林サポーター養成講座が開講。

H 18 年

森林サポーター養成講座の一期生により「茨木里山を守る会」が結成。茨木市里山センターを拠点に活動開始。

H 25 年

平成二十四年からの機械導入により運営コストが上がり、団体経営に悩んでいたところ、市内の他団体より本交付金の事を聞き、活用を開始。

R 3 年

千提寺地区の自然林、人工林、竹林、及び銭原地区の人工林など約40haのフイールドを整備。

活動のステージ



活動における工夫点

- 多様な活動を行っており、会員数も多いため、組織内に保全担当(整備の実行部隊)と安全担当(チェーンソー講習等)、特別担当(新型コロナ、年間行事)などの役割があり、責任者を配置して体制を構築。
- 毎月の会報や団体ホームページにヒヤリハット事例を掲載し、安全対策の意識を醸成。
- 森林サポーター養成講座にも関わり、里山整備活動の次世代の担い手育成にも力を入れている。
- 活動地保有者の千提寺自治会及び銭原共有林管理組合と、年2回の保全状況の内容確認を実施。活動地毎の森林ビジョンを共有し、地権者の計画に沿っている事を確認しながら継続した取り組みに繋げている。
- 市里山センターに間伐材を買い取ってもらい、イベントや木工教室などで活用。

活動における課題

- 参加者の人数が多い場合の安全管理。
- ほとんどサラリーマンのため、退職年齢の引き上げにより会員の年齢層も上がっている。

今後の展望

- これまでの大きな方向性としては、間伐によって森を美しくすることが中心だったが、荒廃していた土地はある程度整備できてきたため、山主とも話し合い、植樹にシフトした活動など、山をより良くするための活動を展開していきたい。



事務局長
齊藤哲実さん

活動組織キーマンの生の声

里山を維持・保全するための活動及び啓発活動を行い、地域社会の環境改善に寄与します！



みすみりんぎょうけんきゅう

三隅林業研究グループ

山口県長門市三隅地区

温暖な気候と海や山などの自然環境に恵まれ、これらを活かした一次産業と観光が基幹産業です。しかし近年、県獣であるニホンジカの個体数増加により、農林産物への被害・森林所有者の経営意欲が減少しており、薪炭・シイタケ原木を生産していた広葉樹林では、手入れ不足による雑木侵入が見られ、タケノコ生産をしていた竹林では、竹が繁茂している状況にあります。

TEL: 0837-43-1170 (山本)



活動の概要

「焼き鳥の街」とのマッチングによる森林資源活用

三隅林業研究グループは、昭和 50 年に旧三隅町の山林所有者が情報交換を行うグループとして発足。その後、森林整備活動を行ってきましたが、近年は活動に対するモチベーションが上がらない状態でした。そこで、代表の山本氏は本交付金の活用を開始し、薪炭・シイタケ原木を生産していた広葉樹林において雑木の除伐、繁茂した竹林においてタケノコ生産を再開するための竹林整備を実施。さらに、竹林内に鳥獣害防止柵を設置し、付近の沢で栽培していたワサビの復活を目指し

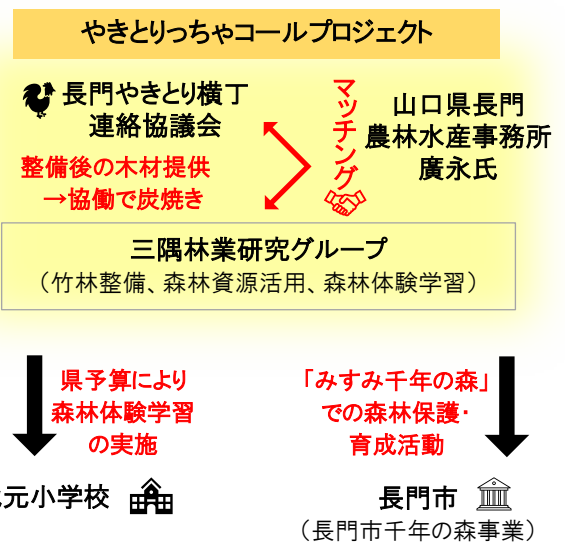
活動を行っています。また、活動開始のタイミングで山口県長門農林水産事務所の廣永氏の紹介により、「自分達でつくった炭で焼き鳥を提供したい」と考えていた長門やきとり横丁連絡協議会とマッチング。「やきとりっちゃんコールプロジェクト」の中で、整備後の木材提供と協働での炭焼きを行っています。その他にも、県や市の予算によって、地元の小学校を対象とした森林体験学習の実施や、「長門市千年の森」事業での森林の保護・育成活動などを行っています。

活動の成果

- 技術研修・生産知識の習得により森林資源の増大、森林の効果的活用を図り地域林業の発展に寄与。
- 「やきとりっちゃんコールプロジェクト」による木材の活用と炭の地産地消、地域活性化に寄与。
- 森林整備だけでなく、森林資源の効果的活用ができるようになり、活動に対するモチベーションが向上。



活動の体制



活動
タイプ

里山	竹林	資源	機能	関係
●	●		●	

S 50 年

旧三隅町の山林所有者の
情報交換の場として「三隅
林業研究グループ」発足。

R 2 年

- ・山口県長門農林水産事務所の紹介により、「自分達でつくった炭で焼き鳥を提供したい」と考えていた「長門やきとり横丁連絡協議会」とマッチング。
- ・近年、活動に対するモチベーションが上がらない状態を受け、本交付金の活用を開始。

R 3 年

- ・鳥獣害防止柵の設置と、柵内でのワサビ再生活動。
- ・繁茂した竹林におけるタケノコ生産再開のための竹林整備の実施。

活動の
ステージ



活動における工夫点

- 活動後継者や関係人口に繋がるよう、ラジオやテレビなどのメディアへ積極的に紹介。
- 竹林内に鳥獣害防止柵を設置し、その柵内で昔栽培されていたワサビを植え、復活を目指している。復活した際には、道の駅等に販売を予定。
- 焼き鳥で使用した後の灰を適正に回収し、土壌改良材として活用。広葉樹を炭窯で焼いた後の灰は藍染にも活用。
- 自分達で炭を焼き、輸入炭に頼らないことで、資源やお金が地域内で循環し、山の管理を進めている。
- SDGsの名目で山口市の都市住民を対象にした交流事業を実施。午前炭窯での炭焼き体験、お昼に焼き鳥体験、午後は焼き鳥での灰を木の周りに撒き、最後に灰を活用した藍染の紹介を行った。参加者にも好評だったため、連絡先を聞き、継続的に活動へ来てもらえるように繋がりをもった。

活動における課題

- 活動メンバーの高齢化・後継者不足。

今後の展望

- 関係人口創出・維持タイプを活用したいが、どのように活用できるか検討中のため、活用方法を模索していきたい。



団体代表
山本英雄さん

活動組織キーマンの生の声

交付金の活用によって、竹の子やワサビ、炭などの有効活用ができるようになり、施業の意欲が高まりました。

もり かがわ
森づくり香川・
りんえんじゆく
林援塾

香川県綾歌郡綾川町西分地区
西分地区内の毛利敬所有林（里山）は、施業の担い手の高齢化により長年手入れができず、竹侵入や新生竹が密生している状況です。このままでは林内や周辺地域の環境・景観の悪化が進行する恐れがあるため、環境整備が必要とされています。

TEL：080-2989-1839（若狭）
Mail：kazu.wakasa@pk2.so-net.ne.jp



活動の概要

放置里山林整備によって地域に貢献する

平成15年、香川県森林活動団体として“森づくり香川連絡会”が創設され、県内森林ボランティア団体の立上げサポートをメインに、県民向け“こだわり森林講座”の開催を通じた森林整備啓発活動が開始されました。平成21年には、森林整備を行う内部組織として「林援塾」が立ち上がり、森林の知識だけでなく森林整備を実践する技量を体得することを目的に塾生を募集し、最盛期には30名以上の登録がありました。

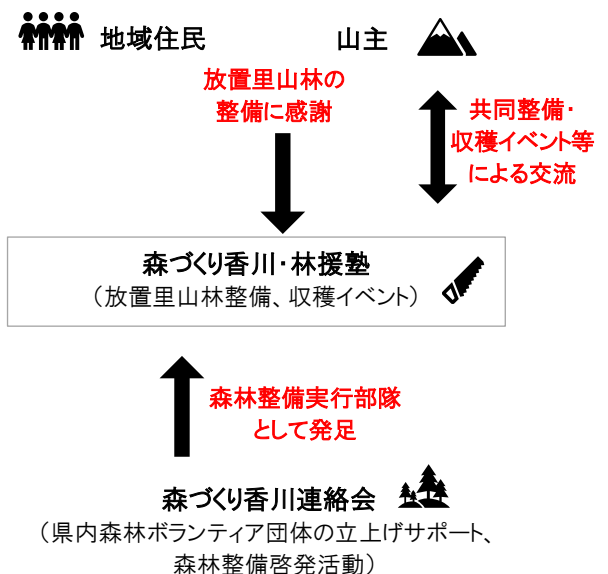
そして、令和元年の代表交代を受け、令和2年には会の規約改定と会の名称を変更。新たに「森づくり香川・林援塾（略称 林援塾）」の名称となり、啓発活動である“こだわり森林講座”は他に移管されました。現在は、塾生会員23名のなか、放置林等での森林整備活動を継続的に行っています。また整備後は、栗や柚子、竹の子の収穫イベントも実施しています。

活動の成果

- 放置里山林の整備によって、森林所有者をはじめ住民の多くに感謝されている。
- 山主が林援塾に加入し、塾生会員と共同作業を行う事により、周辺地域住民への波及効果が期待。
- 素人から森林整備に参加した塾生も多いが、メンテナンス講習会などで塾生同士が教え合い、スキル向上に繋がっている。



活動の体制





H 15 年

サラリーマンを早期退職し、大学で森林学を学んだ中村氏によって、香川県森林活動団体として「森づくり香川連絡会」が創設。県内森林ボランティア、県民向け「こだわり森林講座」による啓発活動を開始。

H 21 年

「森づくり香川連絡会」の中に森林整備の実行部隊として「林援塾」が立ち上げられる。知識だけでなく森林整備を実践する技量を体得することを目的に、塾生の募集を開始。里山林整備・普及啓発活動を行う。

H 30 年

徳島県、香川県、愛媛県、高知県、四国森林管理局より、四国の森づくりを積極的に推進している団体として「四国山の日賞」を受賞。

R 1 年

代表交代。

R 2 年

名称を「森づくり香川・林援塾（略称：林援塾）」に変更し、「こだわり森林講座」は他に移管。

R 3 年

塾生会員二十三名で、放置林等での森林整備活動を継続。

活動のステージ



活動における工夫点

- チェーンソーなどのエンジン付き作業機械について、機械修理の師匠と呼ばれる塾生を中心に「メンテナンス講習会」を年1・2回開催。各塾生のスキル向上に努めている。
- 活動が終了した竹林での継続した整備のため、竹の子の成長期に竹の子掘りを兼ねて山に入り、伐採作業を1、2回程度行う事で竹の繁茂を防いでいる。
- 里山整備後、栗の木・柚子・竹の子の時期に収穫イベントを実施。山主にも参加いただき、交流を図っている。

活動における課題

- 塾生の高齢化、新規入塾生の減少。
- 竹林の継続的な整備。

今後の展望

- 地元住民の紹介などを参考に調査を行い、新しい活動場所を選定予定。塾生の高齢化の波が押し寄せているため、活動中の事故防止を重視しながら、安全第一と雨天休止をモットーに、引き続き里山林整備活動を継続。



団体代表
若狭和義さん

活動組織キーマンの生の声

里山林は団塊世代以上の人にとっては身近なものでした。また近年、森林整備活動がSDGsに貢献するという観点からも参加者の増加が期待されていますが、実際は厳しいものがあります。整備参加希望者が気軽に森林に入れるよう敷居は低く、技術講習会による技量向上、時季ごとの活動に変化をつけ、マンネリ活動にならないようにしています。



じんせきこうげん さとやまじゅく

神石高原里山塾

広島県府中市上下町

人口減少と高齢化によって里地・里山が長期間荒れたままになっていることにより、猪等の隠れ家になってしまったり、景観も著しく損ねています。また、竹林が人工林へ侵入し、林道も通行困難となっています。そのような状況の中、皆が癒される里山の景観を取り戻し、里山文化を継承しつつ、里山暮らしに憧れが持てるような場所作りに奮闘しています。

TEL : 090-1185-0170 (伊達)

Facebook :

<https://m.facebook.com/%E7%A5%9E%E7%9F%B3%E9%AB%98%E5%8E%9F%E9%87%8C%E5%B1%B1%E5%A1%BE-102016084562996/>



活動の概要

里山における新しいビジネスモデル構築を目指す

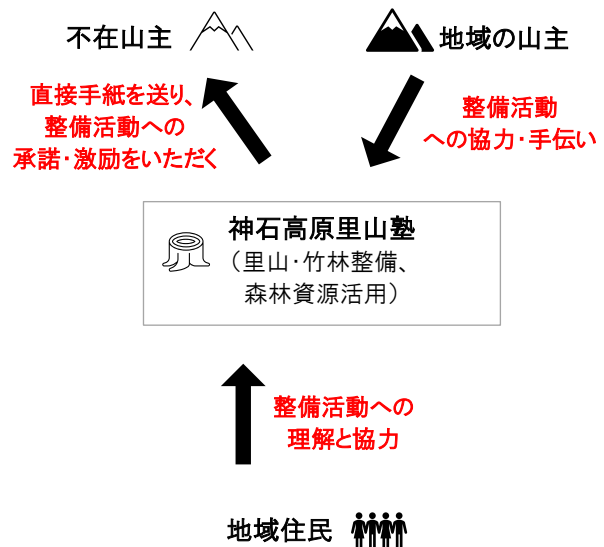
平成 17 年、団体代表の伊達氏は広島市で森林ボランティア団体に加入。平成 22 年以降、広島市里山整備士、続いて自伐林業インストラクターに認定されました。そして、自身で所有していた 15 ha の山を整備し、里山の景観に癒される場所作りと、林業や山の幸を活かしたビジネスモデル構築を目指して、安芸高田市の若者 2 人と「神石高原里山塾」を発足しました。その後、遠方から手伝いに来てくれるメンバーに日当を払いたい、と地域

協議会の紹介で平成 30 年から本交付金の活用を開始。それを契機に地元山主だけでなく不在山主にも手紙を書いて賛同いただくなどして整備地を拡大してきました。また、間伐材だけでは満足できる収入が難しいことから、桧のベンチや雑木・竹を活用した工作物を試作しながら、将来的には都市住民、加工業者などと連携したビジネスモデルの構築を目指しています。

活動の成果

- 地域住民の理解が進み、地域の山主も活動の手伝いに来てくれるようになった。
- 都市住民(福山市)との交流が進み、当初のメンバー二人が欠けた後も、協力者が増え、組織が充実。
- 都市住民が見学、応援に来てくれるようになった。
- 将来、地域の資源ともなりうる、珍しい蝶や山野草やキノコ等との出会いがあり、生物多様性を実感する。
- Facebook で活動の様子を発信するようになり、全国から応援をもらうようになった。
- 森の学校、森の幼稚園の候補地となった。

活動の体制



H 17 年

代表の伊達氏が、広島市で森林ボランティア団体に加入。

H 22 年以降

代表の伊達氏が、広島市里山整備士や広島市自伐林業インストラクターに認定。

H 27 年

代表の伊達氏が所有していた十五haの山をベースに、森林ボランティア団体で繋がりがあった安芸高田市の若者二人と「神山高原里山塾」を発足。里山整備を開始。

H 30 年

地域協議会の紹介で本交付金の活用を開始。それを契機に地元山主だけでなく不在山主に手紙を書いて賛同いただくなどして整備地を拡大。

R3 年

地元山主や不在山主の要望を受けて整備地をさらに拡大、二期目に入る。



活動における工夫点

- 伐採した樹木や竹を活用して、皮むき丸太のベンチや様々な工作物を試作、ビジネスの芽を模索している。
- 自身が所有している山だけでなく、周辺の山にも整備を拡大。不在山主は法務局等で調べ、直接手紙を書き、整備活動への賛同・協力をいただいている。
- Facebook を活用し、活動写真も併せて記録に残している。また、Facebook での繋がりから活動メンバーの確保にも繋がっている。



活動における課題

- 空き家の多い過疎の集落の中で、今後里山を活用したビジネスモデル構築のために、外部の人材との連携が不可欠。

今後の展望

- 里山の景観に癒される大人の散策コースや木材の活用などが期待できるため、事業者や都市住民と繋がり、より効果的な活用法を模索・展開していきたい。



団体代表
伊達直人さん

活動組織キーマンの生の声

皆が癒される里山の景観を取り戻し、里山の素晴らしさを実感できる場所づくりに奮闘しています。交付金事業のおかげで急速に整備が進展しています。協力してくれるメンバーも増え、また不在山主の故郷への熱い思いや激励が励みになっています。



ほうじん
NPO 法人
おくうんぜん しぜん まも かい
奥雲仙の自然を守る会

長崎県雲仙市千々石町田代原

雲仙岳北部に広がる九千部岳と吾妻岳に囲まれた千々石断層上の盆地。その中央部にはツツジの一種であるミヤマキリシマが咲く放牧草原が広がります。しかし、放牧する牛の減少、それに伴う雑木等の増殖により草原環境が失われつつあります。

所在地：長崎県雲仙市国見町土黒庚 2323 番地
TEL：0957-78-3521 / FAX：0957-72-5433
Mail：okuunzen@gmail.com
URL：http://www.okuunzen.org



活動の概要

ミヤマキリシマが咲く放牧草原の保全・環境教育への活用

団体理事長の中田氏は、昭和60年より田代原地区に関わり始め、利用者の癒しの場づくりや自然体験及び保護活動を実施してきました。平成17年には当団体を設立し、青少年の健全育成や高齢者・障害者の生き甲斐の追求、社会の発展に寄与することを目的に、地区の自然保護と森林内の環境教育フィールドを提供し、農山村体験学習やボランティア活動などを展開しています。さらに平成22年には、児童らが森林環境教育を実践できるフィールドを国有林内に設定する制度「遊々の森(奥雲仙牧場の森)」協定を長崎森林管理署と締結

しました。しかし、平成26年に遊々の森での牛の放牧が全面終了となり、それに伴う雑木等の増殖によって環境教育活動の提供が厳しくなることが予想されました。そこで、本交付金の活用を開始し、草原と森林の調和のとれた場所づくりを行ってきました。現在は、田代原草原内の森林の雑草木の刈払い、草原内のミヤマキリシマの保全活動を行っています。さらに本交付金の整備地に、ミヤマキリシマなどを植樹し景観の向上にも尽力しています。

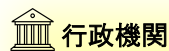
活動の成果

- 整備によって危険木等の処理を実施し、地元小学校の環境教育フィールドの継続利用に繋がっている。
- ミヤマキリシマ等を植樹し、飛躍的な景観の向上と、観光客増加による駐車場の整備等に繋がっている。
- 活動を継続することで、安全な環境フィールドとしての活用、企業向けの広報ができるようになった。



活動の体制

雲仙田代原レクリエーションの森管理運営協議会



行政機関
(長崎県自然環境課、
雲仙市観光物産課)



島原雲仙
農業協同組合

景観を整備し、観光や教育の場としての周知・利用を促進

NPO 法人奥雲仙の自然を守る会
(森林・草原保全、農山村体験学習、ボランティア)

・教育・研究のフィールド
としての活用
・保全活動への参加、
生態調査

長崎大学環境科学部
(講義や卒業研究 等)

「遊々の森」協定
締結による
森林環境教育
の実施

長崎森林管理署



S 60 年	H 17 年	H 19 年	H 22 年	H 28 年	H 26 年	H 30 年	R 3 年	
及び保護活動が開始。	団代理事長の中田氏によって田代原地区での自然体験	活動場所が国立公園内にあり、規制等と思うように活動できなかつた事をきっかけに「NPO 法人奥雲仙の自然を守る会」を設立。	修学旅行生の農山村体験受入開始。	遊々の森協定締結。森林環境教育活動を開始。	長崎大学野外研修の受入を開始。	「遊々の森」での牛の放牧全面終了に伴い、雑木等の整備による環境教育活動の維持のため、本交付金の活用をスタート。	企業による遊々の森植樹活動の実施。	日本自然保護大賞3度目の入選。

活動のステージ



活動における工夫点

- 高齢の会員も自然体験学習時の見守り隊として活躍する事で、事故の無い安全な運営を実現。
- 長崎大学環境科学部との連携体制。
 - ・環境フィールドスクールや講義、卒業研究における教育・研究のフィールドとして活用（保全活動への参加や、地域の生物多様性の把握、絶滅危惧種の生態調査を行ってもらっている）。
 - ・大学生や企業の協力による、紙芝居や図鑑づくり、樹木調査、樹名板設置、企業向けの PR 動画の作成。
- 景観を整備し、観光や教育の場としての周知・利用を促す事を目的に、県や市と「雲仙田代原レクリエーションの森管理運営協議会」を発足し、連携体制を確立。

活動における課題

- 現在の活動場所が、何十年と手を入れていない荒地のため、思うように整備が進まない。
- 国立公園の様々な規制の中、資金の調達が困難。
- 会員の高齢化、活動を継続するための森林の担い手やボランティアの参加者の確保。

今後の展望

- 保全活動によって向上した景観をドローン撮影などで SNS に積極的に発信。
- 林内や草原を合わせて 10.5ha の広いフィールドを企業の研修等に活用していただくための活動。
- 森林の担い手を育成できる仕組みの模索。



団体代表理事
中田妙子さん

活動組織キーマンの生の声

森林整備が持続可能な景観整備の復活に繋がり、社会貢献活動への喜びを感じた。今後、企業の行う CSR 活動を誘致し、SDGs が示す持続可能な社会への貢献を目指すとともに、今後も田代原草原の素晴らしい景観と癒しの場づくりを継続し未来へ残していきたい。



かぐら

狩蔵てごり

宮崎県西都市東米良地域

その急峻な地形には、先人によって植林され活用期を迎えたスギや広葉樹、また竹林約230haがありますが、人口218人、高齢化率67%という状況の中、林業や地域の担い手不足から、森林の保全管理が危惧されています。

Mail : noujyu0122@miyazaki-catv.ne.jp



活動の概要

放置竹林を資源として活用し、地域活性化を目指す

平成25年、宮崎県職員だった江藤氏(現竹友会)が、狩蔵てごりへ本交付金事業の説明を行った事がきっかけとなり活動がスタートしました。「里山を守り、集落を元気にしたい！」との思いから、①利益が残り、②仕事が増え、③雇用が生まれ、④活気づく事を目的に活動を継続。サポーターである竹友会と共に、放置竹林整備を実施しています。竹資源活用では、竹の子を生産し地元食品加工業者へ販売、竹パウダーを地元園芸農家等へ直接販売しています。さらに、交付金による活動

以外にも、農・畜・林が連携した「竹資源有効活用推進協議会」を設立し、畜産農家の牛に使用するサイレージや、敷料・堆肥となる竹チップなど、新たな地域産物創造にも挑戦しています。

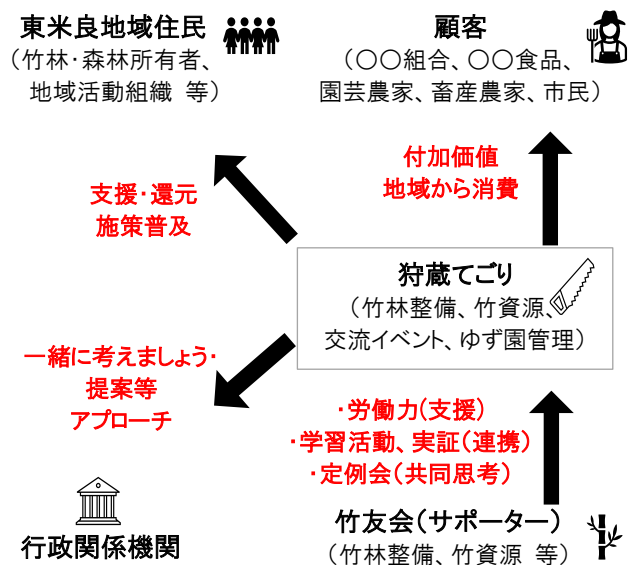
その他、括り罾猟による鳥獣害対策、里山の理解・魅力向上の取組として、カブトムシのいる森づくり、門松づくりや竹の子掘り体験ツアーなど様々な活動を展開しています。

活動の成果

- 沿道が綺麗になり集落から感謝。
- 竹林の自主的な管理へ繋げている。
- 竹資源活用で地域の食品加工業者や農家に貢献
- 販売収益の一部を所有者へ還元。
- 様々な活動の維持・発展(鳥獣害対策体制の確立、カブトムシのいる森づくりによる新たな拠点創出、イベント等を通じた交流創出や受入環境の向上)。



活動の体制



活動タイプ	H21年	H23年	H25年	H26年	H27年	H28年	H31年	R2年	R3年
里山									
竹林									
資源									
機能									
関係									
内容	東米良出身者など関係者により竹友会が結成。	竹友会のメンバーが多く、活発に活動できない状況を受け、メンバー数名により狩蔵てごりを発足。地域活性化のため、放置竹林に着目した活動を開始。	元県職員の江藤氏が、地域で頑張る人々の組織づくりを本交付金で仕掛け、狩蔵てごりへの事業説明に繋がり、本交付金活用が開始。	畜産試験場協力の下、竹サイレージ実証実験。	竹資源をフル活用した「農・畜・林」連携の地域産物創造のため、竹資源活用推進協議会を設置。	竹チップ敷料試験を実施。	活動サポーターの竹友会が改編し、学習活動・実証実験において連携を強化。	かぶと虫のいる森づくり開始。	竹林3.7ha整備中。

活動のステージ



活動における工夫点

- 穂先竹の子の採取等により成長本数を減らし、伐採作業の軽減や安全性と景観向上へ。
- 竹資源の有効活用による伐倒林の林外搬出。
- 竹林所有者への竹の子収益の還元や人と人の繋がりによる意欲醸成。
- 竹資源の新たな有効活用に挑戦(サイレージや竹チップの実証実験)。
- 活動拠点を建設(集会場・作業場・遊び場等)。
- 週1回の定例会や月1回の懇親会による情報共有・共同思考醸成。
- 西都市役所との意見交換や勉強会、政策の提案等

活動における課題

- 竹林資源の販売拡大や新商品開発、雇用の創出。
- 行政関係機関との連携・事業化が上手く結びつかず、活動メンバーのやる気喪失が懸念。

今後の展望

- 人脈づくりやシニアパワーの参画による地域の担い手・山村との関わり人の増加。
- 森林環境譲与税を活用した地域課題解決の政策実現と、地域に寄り添う行政に変化させる。
- 具体的な実践モデルへの挑戦(伐倒隊育成や森呼吸ロード設置、タケノコ堀デーの開催等)。



交付金活用の仕掛け人
江藤能充さん

活動組織キーマンの生の声

交付金を活用しながら様々な取組みに挑戦し、起爆剤となるような活動を行っていきたい!



はんのう

飯能 woods

(埼玉県飯能市)

交付金活用期間：3年間（平成30～令和2年度）

TEL: 048-933-8111

H P (飯能 wood+) : <https://wood-p.jp/flow>

活動概要

交付金活動で得たノウハウを活かした林業関係者サポート活動への展開

林業に関心のある方々が伐木講習を受講した後、実践を通してスキルアップを目指し、飯能市内7.2haの放置林を対象に本交付金を活用しました。チップパー・チェーンソー等の機材購入にはじまり、2割間伐の施業を開始。40年以上前は尾根続きに歩くことができた林内も倒木等により入れない状況でしたが、3年間の森林整備によ

り、歩道の確保・景観改善に繋がっています。また、交付金終了後も活動を継続し、山主や地域住民に喜ばれています。さらに、交付金活動で得たノウハウを活かし、一般社団法人「WOOD PLUS」を立ち上げ、伐木技術向上に向けた研修会や林業経営・起業相談、山林所有者への維持管理の相談など展開を広げています。

活動継続の工夫点・ポイント

- 活動計画書に沿って2割間伐を適切に実践してきたことにより、胸高直径を4cmまで育てることができ、施業の効果がみられている。
- 台風により、周辺の山林は甚大な被害が出たが、交付金の施業エリアは倒木もなく被害が最小限に抑えられ、持続可能な森林管理について本活動の取り組みの認知が広がった。
- 交付金終了後も山主の許可を得て定期的に間伐施業を進めている。
- 本交付金で得た技術を活かし、研修会や経営相談、木材の流通・販路拡大などのサプライチェーン構築を展開。



現在の活動における課題

- 環境に配慮せず伐木を進められる山林も見られるため、持続可能な森林の維持管理・経営について、山林所有者や事業者理解していただくための普及啓発が必要と認識している。

今後の活動の展望

- 交付金整備エリアは継続して管理を実施。
- 「WOOD PLUS」では、林業関係者のための研修会を継続するとともに、素材生産者が稼ぐための「サプライチェーン」構築に向けた実践を進めていきます。



本交付金事業の取組を通じて、地元地域や地域協議会の協力により、目標林の実現だけでなく、自身・団体の技術・ノウハウの蓄積に繋がりました。

キーマンの生の声
代表 星美千代さん





ほうじん かんきょうほぜんきょういくけんきゅうじょ
NPO 法人 環境保全教育研究所
(長崎県長崎市田手原町)

交付金活用期間：5年間（平成26～30年度）
TEL: 080-5264-4871
Mail: info@henchikurin-2010.org
H P: https://henchikurin-2010.org/

活動概要

子どもと大人がお互いに学び合える自然体験の場

代表理事の豊田氏は、大学生の時に子ども向けのキャンプボランティアに参加した経験から、子どもと大人がお互いに学び合える自然体験の場をつくりたいという考えに至り、平成22年に当団体を設立。平成26年にはNPO法人認証の取得と同時に本交付金の活用を開始し、里山を中心とした竹林整備や環境教育を行うフィー

ルドづくり、また、子どもから大人まで幅広い年代が自然の中で遊べる自然体験プログラムに活用しました。本交付金終了後も、会員を中心に、幅広い年代・目的を持ったボランティアスタッフ等によって、活動を継続。さらに、自治会の行事支援や高齢者ふれあいサロン等、まちづくり支援事業も行っています。

活動における工夫点・ポイント

- 本交付金を活動の基盤整備に活用し、交付金終了後の継続的な活動へ繋がった（購入資機材の活用、環境教育フィールドとなる竹林整備の拡大、等）。
- その時々集まった人達でできる範囲に合わせた活動を行う。
- 1年を通した森林資源の有効活用（春の竹の子掘り、夏のそうめん流し、秋のタケノコのアウトドアクッキング、冬の門松作り等）。
- 相手と綿密な打ち合わせを行い、参加する子ども達や目的に合った自然体験プログラムの企画を提供する事でピーターを確保。



現在の活動における課題

- 代表理事の豊田氏以外の会員が積極的に活動を行えるような体制づくり。



今後の活動の展望

- これまでは竹をいかに減らして森づくりをしていくかを考えていたが、今後はどの動物を保護していくのか、雑木林に住む両生類の生息等を目指していく。

自然体験を通して、子どもたちだけでなく、保護者や私たち自身も子どもに戻った気持ちで、一緒に楽しめる活動を目指しています！

キーマンの生の声
代表理事 豊田菜々子さん





しゅりじょう こじ もりいくせいきょうぎかい
首里城古事の森育成協議会

(沖縄県国頭村安波国有林・東村平良国有林)

交付金活用期間：6年間（平成26年～令和元年度）
TEL: 098-987-1804（一般社団法人沖縄県森林協会）
Mail: rinkyou2@southernx.ne.jp

活動概要

県産木材の活用を見据えた植樹・森林整備活動

琉球王朝が消滅後、森林政策の変遷や太平洋戦争時の軍用材調達、戦後復興資材のための乱伐等により、県内の優良材が枯渇。そのため、首里城などの建築物の復元にあたっては、台湾及び他府県産のヒノキを使用せざるを得ませんでした。そこで平成20年、県内の木造建築物の将来の復元や修復に備えた大径の用材を育成する森づくりのため、首里城古事の森育成協議会が設立されました。発足当初の事業資金は、(公財)沖縄県緑化推進委員会主管の緑の募金公募事業による

支援金を活用していましたが、県内市町村や諸団体からの要請と競合する中で平成25年までとなつてしまいました。事業資金確保が課題となつていたところ折よく本交付金の活用が開始でき、設立以来、沖縄森林管理署の取り計らいにより、安波国有林に2.49ha、平良国有林に0.68haの森づくり活動の場を設定し、地元の安波小学校や安田小学校、東小中学校の生徒等と共に、植樹・下刈り・施肥作業等を行っています。

活動における工夫点・ポイント

- 地元の小学生等に森林整備活動に参加してもらうと同時に、紙芝居での森林学習や首里城見学などを行う事で、自分達の活動をより深く理解してもらった。
- 継続的な活動をしていくため、NPO法人化の検討や一般社団法人沖縄県森林協会への事務局の設置など、体制を強化する方向で取り組んでいく予定である。



現在の活動における課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が大幅に中止となったため、本交付金終了に伴う影響はそれほど受けていないが、コロナ感染症が収束し、活動が通常時に戻った際の資金確保が課題。
- 当会は設立当初から構成員への負担金をお願いしていないため、今後、林業・緑化・自然環境団体等へ招致参加と併せて負担金を働きかける必要がある。

今後の活動の展望

- 令和2年10月31日未明の首里城火災により、用材供給という面で貢献できない無力感を痛感。同時に、当会の活動の場だけでなく、県・市町村有林での首里城用材生産に特化した植樹活動が必要だと考えているため、働きかけを行っていく。

首里城再建に必要な木材供給には間に合わないが、今後100年、200年先を見据えて活動を継続していきたい。

キーマンの生の声
会長 照屋寛孝さん



地域協議会 活動組織支援事例

活動組織支援に関する取組事例

積極的な情報共有・情報発信の工夫

- 九州全県の地域協議会で懇親会を兼ねた意見交換会を開催。日頃から相談できる関係性を構築している。
- 毎年度、活動組織事例集を作成。費用対効果も算出しており、活動組織が自身の活動を振り返る事ができるようになっている。
- ホームページ、SNS は閲覧者が未更新で不安にならないよう頻繁に更新するよう意識して発信。また、SNS では映える写真を投稿することで新規登録者を増やしている。
- 本交付金制度の動画を分かりやすく伝えるための動画を作成し、説明会等で発信している。写真を多く使用し視覚に訴えることで文章や言葉だけでは伝わらない制度のイメージを伝えている。

産山ふるさと森の守り人
活動効果算定結果

活動種別	活動内容	実施期間	費用対効果
1	産山ふるさと森の守り人（産山ふるさと森の守り人）	2023.10.01~2023.10.31	2.78
2	産山ふるさと森の守り人（産山ふるさと森の守り人）	2023.10.01~2023.10.31	2.78
3	産山ふるさと森の守り人（産山ふるさと森の守り人）	2023.10.01~2023.10.31	2.78
4	産山ふるさと森の守り人（産山ふるさと森の守り人）	2023.10.01~2023.10.31	2.78
5	産山ふるさと森の守り人（産山ふるさと森の守り人）	2023.10.01~2023.10.31	2.78
6	産山ふるさと森の守り人（産山ふるさと森の守り人）	2023.10.01~2023.10.31	2.78
7	産山ふるさと森の守り人（産山ふるさと森の守り人）	2023.10.01~2023.10.31	2.78
8	産山ふるさと森の守り人（産山ふるさと森の守り人）	2023.10.01~2023.10.31	2.78
9	産山ふるさと森の守り人（産山ふるさと森の守り人）	2023.10.01~2023.10.31	2.78
10	産山ふるさと森の守り人（産山ふるさと森の守り人）	2023.10.01~2023.10.31	2.78



独自で作成したモニタリング調査シートの提供

- 相対幹距比、本数調査、資源利用調査、胸高断面調査に関して、樹種、胸高直径、樹高を入力すれば自動計算される独自の Excel フォーマットを作成。活動組織も使い勝手が良く、数値の計算ミスも無く調査することが可能となっている。

実態に沿った安全講習の実施

- 安全講習として林防災の林業従事者向け講習を実施していたが、令和3年度は熱中症やマダニ・蜂などの災害が多い事から、学芸員による「森に潜む危険な生き物」講習を開催。また、アドバイザーによる「日々の安全確認のためのクイック講習（鎌や鉋を使用した研修）」を実施。実態に沿った安全講習で活動組織の安全管理能力の向上に繋げている。



施業施術セミナーの実施

- 森林整備の目的明確化により継続的な活動に繋げていく事を目的として、専門家等による施業施術セミナーを実施。



マッチングイベント

- 熊本市動植物園よりレッサーパンダの餌である孟宗竹の提供依頼を受け、活動組織に竹の持ち込みを依頼。竹を持ち込んでくれた活動組織には餌やり体験ができるよう交渉し、「孫を連れて行きたいので協力したい」という活動組織とマッチング。今後、孟宗竹以外の竹も餌として活用できないか試行していく予定である。

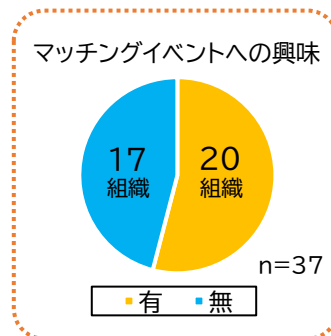
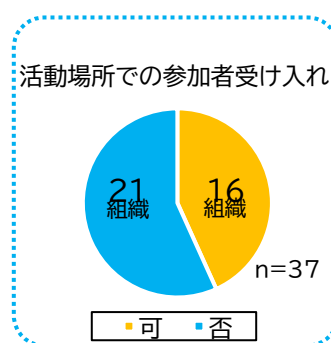


長崎森林・山村対策協議会（長崎県長崎市）

活動組織支援に関する取組事例

関係人口創出・維持タイプの活用に向けたマッチングイベント

- 今年度より新設された「関係人口創出・維持タイプ」を推進するにあたり、県内活動組織を対象とした事前の意向調査を行った。調査の結果、回答組織の約43%は活動場所での参加受け入れが可能と回答しており、「整備未経験者の受け入れは厳しい」などの意見もあったが、効果を期待する声も多いことが分かった。さらに、マッチングイベントについて、約54%の活動組織が興味を持っていると回答。里山林整備をした事がない団体と活動組織とのマッチングイベントにより、組織の知名度アップや新規会員獲得に繋がる事が期待できる。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け開催は延期となったが、今後は長崎県内大学のボランティアサークルをターゲットとし、活動組織とのマッチングを予定している。
- また、活動組織独自で他団体との交流などのマッチングが自発的に行われていることもあり、既存の取組を発展させていくために、本交付金をどう活用できるか、検討を進めている。



TEL: 095-895-9119 FAX: 095-895-8654 ホームページ: <https://nagasaki.shinrin-sanson.jp/>

大阪さともり地域協議会（大阪府大阪市）

活動組織支援に関する取組事例

里山保全セミナー開催による府内森林ボランティアの交流促進

- （公財）大阪みどりのトラスト協会と連携し、大阪府の里山保全活動の展望について考えるとともに、関係者間の意見交換・交流の場となることを期待し、「里山保全セミナー」を開催。専門家等による話題提供や、団体の活動事例紹介などを行った。

アドバイザーの活用

- アドバイザー派遣の希望がない、あるいはアドバイスを受ける内容が具体的でない活動組織には、現地確認の際に本交付金の活用実績があるアドバイザーが同行し、活動内容や安全対策の妥当性等について客観的な視点から意見を述べ、必要に応じて指導・助言を行っている。

活動組織のニーズに沿った安全講習

- 毎年、活動組織からのニーズを踏まえて安全講習のテーマを設定。来年度は、18時間の「チェーンソーによる伐木等特別教育」を全員が受けるのは難しいとの声を受け、チェーンソーを安全に使用する基本的な技能・知識取得のための「チェーンソーの1日安全講習会」を開催予定。



TEL:06-6115-6512 FAX:06-6115-6524 ホームページ: <http://ogtrust.jp/satomori/>

一般社団法人山梨県森林協会（山梨県甲府市）

活動組織支援に関する取組事例

ホームページデザインの工夫

- ホームページの作成・デザインに長けた方が森林協会へ加入したため、令和3年に森林協会ホームページのデザインを一新。林業業界が低迷している事もあり、30～50代の方をターゲットとし、目を引いて興味を持ってもらえるようなデザインになるよう工夫した。

「野外活動における安全対策講習会」の実施

- 野外活動の安全講習を受けられる機会がなかなか無い事から、令和3年度に初めての試みとして、「野外活動における安全対策講習会」を実施。会前半は山梨県森林総合研究所の指導員より「森林内の危険生物対策」のテーマで、蜂や熊等との遭遇時の対応や加齢を伴う身体機能の変化について講習。会後半は、林業・木材製造業労働災害防止協会山梨県支部の方から、「間伐等の安全な森林作業の知識」のテーマで安衛法や機械の取扱、災害事例などの講習を行った。
- 交付金活動組織3団体（22名）が参加すると共に、県内森林ボランティア2団体（6名）の参加もあり、繋がりをつくっている。



TEL: 055-287-7775 FAX: 055-252-0244 ホームページ: <http://www.y-shinrin.jp/>

公益財団法人 やまがた森林と緑の推進機構（山形県）

活動組織支援に関する取組事例

- 本団体は、令和3年度にアドバイザーの活用を3件実施している。

アドバイザーの活用例「手入れしたスギ林の取り扱いに向けた助言」

- これまで丁寧にスギ林の間伐・枝打ちを行われてきたが、50年生にしては胸高直径が20～30cm程度と小さく、大径木になるのは難しい。そこで、手入れした樹木は売れるものから売っていき、侵入する広葉樹を育成し混交林に仕立てていくビジョンを示した。
- また、利潤を得る方法として、薪の販売ニーズがあることから、公共施設のボイラー設置等による安定需給の仕組みを検討していく等の循環経営の可能性について示された。

アドバイザーの活用例「間伐・枝打ちの技術支援と材の有効活用」

- 当該林地について、枯れ枝は死に節となり材価が下がるため、早急に枝打ちの対処をすべきと指導した。また、当地域は、バイオマス発電所が近く有効活用が期待できるため、間伐率を低めにし、回数をこなしていく森づくりについても指導・助言を行った。



TEL: 023-688-6633 FAX: .023-688-6634 ホームページ: <http://ymidori.or.jp/>



令和3年度
森林・山村多面的機能発揮対策交付金 活動事例集

発行：林野庁
作成：ランドブレイン株式会社